

第2号様式（第3関係）

令和6年度春日井市民病院事業評価委員会議事録

1 開催日時 令和6年10月9日（水）午後2時～午後2時40分

2 開催場所 春日井市民病院3階 講堂

3 出席者

【会 長】	春日井市薬剤師会	会長	林 きよみ
【副会長】	春日井市老人クラブ連合会	会長	稲垣 一義
【委 員】	春日井市子ども会育成連絡協議会	会長	小出 修
	春日井市医師会	理事	佐藤 嘉晃
	春日井市婦人会協議会	副会長	後藤 純子
	税理士		安藤 宣貴
	春日井市健康福祉部	部長	神戸 洋史
【事務局】	春日井市民病院	院長	成瀬 友彦
		看護局長	田垣 美紀子
		事務局長	渡辺 寛
		管理課長	服部 勉
		医事課長	大城 達也
		管理課長補佐	片寄 孝治
		管理課長補佐	春日井 秀和
		管理課長補佐	平岩 正行
		医事課長補佐	越 統靖
		管理課経営企画担当主査	亀谷 信義

4 傍聴者 なし

5 議題

- (1) 令和5年度第3次春日井市民病院中期経営計画の事業報告について
- (2) その他

6 会議資料

資料1 春日井市民病院事業評価委員会名簿

資料 2 春日井市民病院事業評価委員会規則

資料 3 令和 5 年度第 3 次春日井市民病院中期経営計画事業報告書

7 議事内容

(1) 委嘱状及び辞令の交付について

院長から佐藤嘉晃委員に対し、委嘱状及び辞令の交付を行った。

(2) 会議の公開等の確認について

会議は公開とし、議事録は「要点筆記」で作成し、会長及び副会長が確認・署名することを確認した。

(3) 令和 5 年度第 3 次春日井市民病院中期経営計画の事業報告について

【服部課長】 (資料 3 に基づき説明)

【安藤委員】 今までと変わって、資料が視覚的に表されていて見やすくなったと思います。

8 ページ「第 2 節 数値目標及び収支計画 計画、実績対比」の表について、単位の注記が漏れております。

6 ページ「主な経営指標前年度比較」の職員給与費比率のグラフについて、労働分配率なので収入を分母に、給与費を分子としていますが、給料と職員手当を合算すると計画より増加しています。職員給与費比率が低下しているのは、分母の収入が減ったからでしょうか。

【春日井補佐】 6 ページの令和 4 年度と令和 5 年度の比較ですが、この計算方法は、給与費を医業収益で割った値となります。令和 4 年度はコロナ渦で患者数が少なく、医業収益も少なかったのですが、令和 5 年度は医業収益の伸びが、給与費の伸びよりも大きかったため低下したものです。

【安藤委員】 看護師の人数が減少しているので、労働力が減少したことにより、職員給与費比率が下がっているように見えました。

【佐藤委員】 今後も人件費や材料費が増えていく状況が続きます。その中で、病床利用率を上げ、いかに収益の向上を図っていくかが重要です。令和 5 年度は病床利用率 83.8% と前年度と比べて上昇していますが、90% 以上の利用率が望ましいと思います。現状は、入院が必要ない患者さんが多いと思いますが、これからは入院が必要な患者さんを集めていかないといけないと思います。

内視鏡センターや心臓病センターの開設、手術支援ロボットの導入をされたと思うのですが、これまでと何が変わった

のか見えにくいと思います。センターという名前が付いただけではないかと認識されている可能性もあります。実際に全ての治療が市民病院でできるわけではありませんが、対応できる分野や得意分野をさらに広報していくと良いと思います。手術支援ロボットに関しても、泌尿器科領域などで貢献度が高いことを広報していくと良いと思います。市民の皆さんに広報する方法と、医師会等地域の医療機関に広報する方法は少し異なるので、その点をよくご検討いただいて、上手に広報していただければ、患者さんが集まってくると思います。

【成瀬院長】 空き病床からは収益は入りません。病棟に人員配置している以上、入院患者を増やすことはとても大事だと思います。

広報に関しては、医師がよく読んでいる全国的な医療雑誌にも当院を取り上げていただきました。新聞紙面や病院が発行する雑誌等でも広報に努めています。

内視鏡センターや心臓病センターをどのように広報するかについて、内視鏡センターを開設してから、内視鏡手術の実績はかなり多くなっています。市民への広報も大事ですが、紹介なしに直接当院に受診されますと選定療養費をいただかなければなりません。身近な地域の医療機関に当院の良いところをご理解いただいて、多くの患者さんを当院へ紹介していただけるよう、地域の医療機関への広報を中心に行い、市民に対しては、市民公開講座などで広報していきます。紹介に関しては、当院は病床当たりの紹介患者数は県内で最も多くなっています。春日井市医師会、小牧市医師会の協力は県下一だと思っております。ご指摘いただいた事項について、今後もさらに努力してまいります。

【林会長】 自営業の知人がお店に来られたお客さんの体調が悪くなって、お客さんに付き添って救急車で市民病院に着いたら、「あなたは帰ってください。」と言われたそうです。知人は、市民病院は冷たいと言っていたのですが、「それは家族ではない部外者だからそのように言っただけで、冷たくしようとは思っていないですよ。」と伝えたところ、「そういうことか。」と納得してくれました。しかしながら、一般の方々は医療に対しての理解が不十分な部分があるので、そこを変えていけると良いと思っております。

春日井市薬剤師会では、病院が発行しているトリニティやさくらを薬局に設置することで市民の皆さんへのアピールの支援ができればと思っています。他にも協力できることがあれば協力していきたいと思っております。地域の基幹病院として、市民にとって市民病院が頼りになるという実感ができる取組みがあると良いと思います。

【成瀬院長】 私は27年前に市民病院に採用されたのですが、当時は現在よりも課題が多くあったと思います。その後20年以上の時間をかけて、体制は大きく変わりましたが、かつての当院に対する悪い印象をお持ちの方が未だに多いと実感しています。しかし、当院に受診された方は正當に評価していただいているのが実情です。この問題は、私が院長であるうちに解決できないかもしれません。信用を得るためには10年かかるといわれますが、失うのは一瞬です。信用を回復するためには、また10年かかりますから、職員一人ひとりが患者さんに対して丁寧に対応していくことが大切です。

【神戸委員】 3点ありまして、1点目は、12ページ「地域医療連携の推進、地域包括ケアシステムの推進」において、医師会が在宅介護サポートセンターの運営をしていたときに、在宅医療と介護連携が進んで、地域の医師、歯科医師や薬剤師、看護師だけでなく市民病院の医師も参加していて、顔の見える関係づくりが進みました。コロナ禍で中断してしまいましたが、今後再開したいと思っていますので、ご協力をお願いいたします。

2点目ですが、健康分野で各病院や企業などと、官民一体で連携していくことができ非常にありがたいです。人間ドックなどでも連携を進めていきたいと考えています。

3点目ですが、16ページ「経営意識の向上」で、職員新聞なるとも通信の紹介がありました。原稿は、成瀬院長が毎月書かれているのですか。

【成瀬院長】 私が書いております。1,600字程度で、院内向けのものです。

【安藤委員】 赤字となっている経常損益ですが、今後どのようにすれば黒字化できるのか、何か目標やビジョンはありますか。

【成瀬院長】 新型コロナが5類感染症に移行しても、患者数はコロナ禍以前に戻っていません。他の公立病院も同じです。私が心配

しているのは、公立病院が病床数を減少させている中で、将来、新たな感染症が発生した際に、患者さんが入院できずに亡くなることが起きるのではないかと思います。現状は人員体制が課題です。病床が必要な時には病床を確保した上で、通常時は病床を縮小して、その分採用する職員を一時的に減らす方法が考えられます。

経営に関しては、地域の医療機関からの紹介患者の予定手術が一番良いと思います。何日間入院されるか分かりますし、手術手技料は医薬品と異なり元手がかかりません。安全な手術、カテーテル検査ができるということをアピールして、そのような患者さんを紹介していただくことが必要です。

【安藤委員】 黒字転換できれば良いですが、そこだけを目指すことは、公立病院である春日井市民病院の性質上違うと思います。今後も支出は大きくなっていくと思います。黒字転換を目指すのは当然ですが、具体的にどこを目指すのかを考えるべきだと思います。

【成瀬院長】 今年の冬を参考に適正な病床規模を検討したいと考えています。冬に患者数が増えますので、今年の冬にコロナ前までの水準に戻るのかどうか、結果を見て今後の病床数を考えたいと思います。今の段階で減らした場合、今年の冬に入院患者を断ることになり得るので、今は静観するしかないと思います。

【安藤委員】 ようやくコロナ禍から令和6年度に通常運営に戻りました。ビジョンを立ててやっていくことが大事かと思います。

【林会長】 経営に関する専門部署を設けているということは良い取り組みだと感じました。

【成瀬院長】 10年前に他の病院に先駆けて、前院長の時代に病院の経営戦略を担う現在の医療情報技術センターを立ち上げて、いち早く経営分析に取り組んでしましたが、それがなければもっと経営的に大変だっただろうと思います。

【林会長】 このような経営に関する数値は職員へ周知されていますか。

【成瀬院長】 全員を集めて周知はしておりませんが、各部門の代表者が参加する会議で情報共有し、各部署へ持ち帰って、各所属職員に情報共有しています。

【後藤委員】 4月に息子が膝のじん帯を断裂しまして、春日井市民病院で手術してもらいました。看護師さんが親切でとても良かつ

たですが、病室が暑くて大変だったと言っておりました。

【成瀬院長】 光熱費を抑えるため、冷暖房は自由に切替えできない設計になっております。4月の終わりから5月の初旬に暖房から冷房に切替えしていましたが、最近は4月でも暑く、今年は1週間切替えを早めました。来年はさらに早い切替えを検討したいと思います。

上記のとおり令和6年度春日井市民病院事業評価委員会の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び副会長が署名する。

令和 7 年 2 月 13 日

会 長 林 きよみ

副会長 山 出 修

令和6年度春日井市民病院事業評価委員会議事録署名者について

当日の議事で、会長及び副会長が議事録を確認・署名することとしたが、副会長の署名が困難になったため、当日の出席委員の中から、代理で小出修委員に署名を依頼したもの。